

子どもが主体的に学ぶ授業の実践

～聞く力を伸ばす指導の工夫～

(3年計画の1年次)

校長 嶋脇 郁夫 印

1 研究主題について

本校は、これまで、東京大学大学院市川伸一教授が提唱する「教えて考えさせる授業」に9年間取り組んできた。「予習、教師の説明、理解確認課題、理解深化課題、自己評価」という授業スタイルが確立され、児童にも受け入れられている。また、「教えて考えさせる授業」は、習得目標を設定してから授業づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識や技能の定着が良く、国語と算数における標準学力検査の全校平均得点率はおよそ8割、全国学力テストのA・B問題で国語・算数ともに青森県平均を上回った。

しかし、昨年度教職員に実施した「子どもたちに身に付けさせたい資質や能力」についてのアンケートでは、「思考力・表現力・判断力」「主体性」「聞く力」が最も多く、児童の実態から、「自分ごと」として話を聞く力・失敗を生かして学ぶ力・自分の考えを話す力・最後までやり遂げる力が弱いことが課題としてあげられた。

そこで、自己を見つめ、「自分ごと」として学習を進めることができる子を育成するため、これまでの「教えて考えさせる授業」の実践を継続し、学び方を身につけさせるとともにアクティブラーニングの視点からの授業改善を図りながら、子どもが主体的に学ぶ授業を実践していくこととした。

1年次は、聞く力を伸ばす指導について発達の段階を考慮し、低学年と中・高学年に分けて研究を進める。まず、低学年では、「聞きたい」という心情を育て、「聞きたい」「聞くことは大切」「聞くことが楽しい」という「聞くこと」の素地を養う。中・高学年では、「自分ごと」として話を聞く力を育て、思考過程が見えるノートづくりの工夫を図る。聞きたくなる教師の説明や課題設定などを工夫し、授業実践をとおして自己と対話しながら学ぶ子の育成をめざしていきたい。

2 研究のねらい

自己と対話しながら学ぶ子を育てるために、「聞く力」を伸ばす指導について研究を深める。

3 研究仮説

- 聞きたくなる教師の説明や課題設定などを工夫することによって、「聞きたい」という心情を育てることができる。(低学年)
- 聞きたくなる教師の説明や課題設定などを工夫することによって、わかっていることとわからないことを意識して話を聞いたり、自分にとって必要なことを聞き取ったりする力を育てることができる。(中・高学年)

4 研究内容

- 「聞きたい」という心情を育てる指導の工夫
- 「自分ごと」ととらえ、思考過程が見えるノートづくりの工夫

5 年間計画

(1) 授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	5	研究内容および計画の説明 授業者決定	全体会（共通理解）
4	19	研究の重点及び研究仮説の検証について	全体会（共通理解）
5	24	指導案の形式確認・学年研修	指導案検討
5	31	第1回授業研究（6年2組）算数 授業者 教諭 中村規康・大崎富士子	自主公開授業①
6	7	学年研修	指導案作成・検討
9	6	第2回授業研究（2年2組）算数 授業者 教諭 矢野あゆみ 講師 副島慶子	
9	20	第3回授業研究（4年2組）算数 授業者 教諭 工藤理姿・柳町聡宏	
9	27	第4回授業研究（3年2組）算数 授業者 講師 松村典佳・副島慶子	自主公開授業②
11	8	第5回授業研究（5年1組）国語 拡大校内研究会 授業者 教諭 大嶋 照美 助言者 東京大学大学院教授 市川伸一先生	自主公開授業③～⑤
11	29	第6回授業研究（1年2組）国語 授業者 教諭 石橋 誉世	
1	10	今年度の研究について	全体会（研究のまとめ）
1	24	研究について（成果と課題）	全体会（話し合い）
2	7	次年度の方向性について	全体会（説明）

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	19	特別支援研修①（伊藤）
7	5	エビペン講習会（大崎・石橋さ）
7	21	救命講習会：八戸消防署
8	18	特別支援研修② QUの活用について 講師：南部中学校 教頭 佐々木原 淳先生
8	30	青森県学習状況調査採点及び分析
2	21	特別支援研修③ CRT分析 校外研修報告会